

まちめぐり資源の解説

①麦田八幡神社(むぎたはちまんじんじゃ)

この村に居住していた安芸国守護武田氏縁の麦田氏が、天文年間(1532～1554年)に社殿を造営し、これを菱山神社と名づけて同家の氏神としたのが始まりとされる。武田氏滅亡後、麦田家もまた滅びたため社号を麦田八幡宮と改め、広く郷土の産土神として祭ってきたと伝えられている。境内には縁結び地蔵とお助け地蔵がある。



②安川歩道橋脇のクスノキ

クスノキは、ヤナギ、竹、エノキ、ケヤキなどとともに水害防備林に用いられた樹種である。安川歩道橋の近くに立つクスノキの巨木は、昭和3年(1928年)の御大典(昭和天皇の即位儀礼)を記念して植樹されたものと伝えられている。



③中須稲生神社(なかすいなりじんじや)

創建の年月は不明だが、社伝によると奈良時代(710～794年)以前の神社とされている。祭神は宇賀之魂神。文化2年(1805年)に社殿を再建し、さらに明治33年(1900年)これを改築したとの記録があるが、現在のものは昭和20年(1945年)に焼失し、その後再建されたものである。境内の入り口にある手水鉢の形がナスの形に似ていることから「大願成就を成す」とされ、鉢の周囲には、人に随って願をかけた跡、盃状穴(はいじょうけつ)が見られる。



祭礼は10月。4月には春祭りも行われている。また境内に恵美須神社もあり、祭礼は11月。



○○○～安川で見かけた生き物たち～○○○



研究会の調査で見かけた生き物たちです。安川の環境が良くなるとこうした生き物たちが増えてきます。



まちめぐり憩いの空間づくり事業について

安佐南区では、区の魅力を高める「魅力づくり事業」の一つとして、「まちめぐり憩いの空間づくり事業」(平成13年度～平成20年度)を実施し、区民の皆さんと一緒に自然、歴史、まちなみ、施設、住民活動、祭りなど、地域の特徴ある資源を生かしたポイント(空間)や、これらをつなぐルートづくりを行い、平成20年度までに全18ルートが完成しました。

このマップは、平成15年度に開催された「まちめぐり憩いの空間ルート研究会」において、中須地区に在住の方を含む区民メンバーが調査・検討した結果をまとめたものです。



■アストラムラインが便利です。
※運行時刻、所要時間、経由地などは、運行会社にご確認ください。

あさみなみ散策マップ ～安川ルート～

発行：安佐南区役所 地域こし推進課 ☎082-831-4926
制作協力：まちめぐり憩いの空間ルート研究会
発行年月：平成16年(2004年)3月 初版
平成19年(2007年)3月 改訂
平成22年(2010年)2月 改訂
平成24年(2012年)6月 改訂

安川ルートとその周辺について

●安川●

安川は安佐南区を西から東に横断する一級河川です。沼田町に端を発する奥畑川と大塚川が、アストラムライン伴中央駅付近で合流し安川となります。荒谷山と武田山に挟まれた谷を東に流れた後、大町、緑井を経て中須で古川に合流しています。

昔の安川は、JR可部線鉄橋を越えた辺りで、大きく南に流路を変え、祇園・長束方面へ流れていましたが、頻繁に洪水を起こし、周辺の村々に多大な被害をもたらしてきました。そのため、人々は二重の土手を築いたり、農地を遊水池としたりして、たとえ堤防が決壊しても民家に被害が及ばないよう対策に追われてきました。



昭和25年(1950年)の安川と中須付近



平成13年(2001年)の安川と中須付近

中須付近には「ばんざい土手」と呼ばれた場所があり、洪水の時に対岸が決壊すると自分たちの村への被害が無くなるので「ばんざい」をした場所だと伝えられています。

昭和30年(1955年)、洪水被害を防ぐ目的で安川を真っ直ぐ古川に合流させるよう流路が変更され、現在の形になりました。中須から南に流れていた旧安川跡の一部は現在安川緑道となっています。旧安川沿いには古市橋などの名前があり、ここがかつて河川だったところの名残をとどめています。



かつて川土手だった道



この印刷物は再生紙を使用しています

まちめぐり資源の解説

④安川緑道(やすかわりよくどう)

安川緑道は、安川の付け替えによって廃川となった旧安川の河川敷を利用した緑道である。中須から長束に至る廃川敷のうち、武田山橋(祇園一丁目付近)までの約3.1kmの区間が緑道として整備されている。途中には、広場が設けられ、遊具やトイレなども設置されている。



⑤安川と八木用水の立体交差

八木用水は、佐東、安古市、祇園などの地域に必要な農業用水を確保するため、江戸時代中期、南下安村の大工卯之助の計画で開削された延長約16kmの用水路である。都市化が進み農地が減少したが、現在でも現役の農業用水路として利用されている。

安川と八木用水の立体交差は、昭和30年(1955年)に安川の流路を変更する際、新しい安川の河道の下に管を通して下流(中須・古市方面)へ送水する構造にしたものである。ここでは「逆サイフォンの原理」を利用しており、ポンプなどによる動力は使用されていない。

※「逆サイフォンの原理」(伏越の理 ふせこしのことわり)

サイフォンとは、液体をその液面より一旦高い所へ導いて低い所に移す曲がった管、またはその装置を指し、私たちの身近なところでは、水槽の水の入れ替えやコーヒーメーカーに用いられている。異なる2つの高さの水面が管で結ばれることによって同じ高さにそろおうとする原理を利用したものである。

この原理を逆にしたのが逆サイフォンで、液体を高い所から低い所へ移す際に、一度、それらの水面よりさらに低い所にある管を通すものである。

日本ではこれを「伏越の理」といい、江戸時代より用いられた技術である。この技術を国内で最初に利用したのは石川県金沢市の辰巳用水で、兼六園から百間堀をくぐって金沢城中に導水したものだといわれている。



上流流入口



下流流出口



逆サイフォン断面図(八木用水横断部分を安川上流側から見た図)

・主な参考文献・

安古市町誌／郷土の歴史探訪(安佐南区公民館ネットワーク事業)／広島県大百科事典(中国新聞社)／そのほか、社々の現地解説文など

マップと資源の解説の見方

地図面の右側を折り返すと、地図の左半分に掲載された資源の解説を読むことができます。逆に左側を折り返すと地図の右半分に掲載された資源の解説を読むことができます。



右側を折り返す○



○左側を折り返す



どこにあるのか探してみよう！



記号の説明		
まちめぐりルート 0.3 区間の距離 単位: km [注意場所など] 橋断注意 信号交差点 歩行注意 地下道・高架下道路	[まちめぐり資源] 公園 河川・水路 神社・寺院、碑 その他由来のあるもの 特徴ある風景 眺望場所 樹木	[案内・解説の設置場所] 資源の解説板 [目標物・その他] PB 交番 バス停留所 コンビニエンスストア スーパー・ショッピングセンター等 ガソリンスタンド 病院 トイレ

注) ①資源名で示したものは裏面に解説があります。



安川緑道 もう一つの憩いの空間ルート

安川緑道は近隣の人たちの憩いの空間。遊具があり、子どもたちにも好評です。



安川と橋をしのぶ石柱

安川緑道内の8か所には、この緑道がかつて川であり、そこに橋がかかっていたことをしのばせる石柱が立っています。これらの石柱は、市民活動グループ「紙園まちづくりプランプロジェクト」が、広島市まちづくり活動支援基金の助成を受け、平成19年に設置したもので、安川緑道の新しい見所となっています。



- 1 伊予原橋(よいばらばし)跡
- 2 山之上橋(やまのうえばし)跡
- 3 今津橋(いまづばし)跡
- 4 鉄屋橋(てつやばし)跡
- 5 酒屋橋(さかやばし)跡
- 6 庁舎前橋(ちやうしゃまえばし)跡
- 7 豊島屋橋(とよしまやばし)跡
- 8 武田山橋(たけだやまばし)跡

●上の地図中の番号は石柱の位置を示しています。